



2024年7月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.70

— 絵と文 群馬直美 —

私はここに居るよ《シャガの花》

シャガの花と出会ったのは、4月半ばのこと。

とても風が強い日で、ビオトープ園中の葉っぱたちが、風と踊っていた。

シャガの花には不思議な模様がついていて、青紫色の斑点がオレンジ色の筋を囲んでいる。
よく見るとこの筋は、ニワトリのとさかのように盛り上がっているのだった。

真上から花を見ると、三重構造になっている。

一番下に、模様のある大きな花びらが3枚。その内側に無地の小振りな花びらが3枚。

そして中央にサキイカのように縁が裂けたものが3つ。

私が知っているメシベやオシベの姿が見当たらない……。

調べてみると、模様のある大きい花びらは、

外花被(がいかひ)といい、花びらを支えるガクなのだそう。

そして、真ん中のサキイカのようなものがメシベで、

じつは1本のメシベの頭が3つに分かれ、

屋根のようになってオシベを隠しているのだそう。

私はびっくりして、サキイカのメシベの屋根の下をのぞき込んだ。

「あっ、居た居た！ 本当だ。オシベが居た！」

見えるだろうか？ オレンジ色の筋の先、裂けたメシベの屋根の下のオシベの姿が。

「私はここに居るよ。私はここに居るよ」。

《表紙の絵》シャガの花×2.9

「薄紫色のサンタクロースの顔。」

・ヤマトビオトープ園にて 2024.4.15採集
(作品の完成日は2024.5.24)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト 640kg 極細目)/テンペラ
・size:380mm×280mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>